



2026年3月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2025年8月14日

上場会社名 株式会社アスモ 上場取引所 東
コード番号 2654 URL <http://www.asmo1.co.jp>
代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 長井 尊
問合せ先責任者 (役職名) 管理本部長 (氏名) 米山 和恵 (TEL) 03-6911-0550
配当支払開始予定日 —
決算補足説明資料作成の有無 : 無
決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 2026年3月期第1四半期の連結業績(2025年4月1日～2025年6月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2026年3月期第1四半期	5,144	△2.4	116	7.2	110	△10.5	68	△18.1
2025年3月期第1四半期	5,269	3.1	108	△31.1	123	△31.7	83	△24.3

(注) 包括利益 2026年3月期第1四半期 69百万円(△24.7%) 2025年3月期第1四半期 92百万円(△28.3%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2026年3月期第1四半期	5.11	—
2025年3月期第1四半期	6.23	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2026年3月期第1四半期	9,285	6,575	70.6
2025年3月期	9,325	6,640	71.0

(参考) 自己資本 2026年3月期第1四半期 6,558百万円 2025年3月期 6,621百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2025年3月期	—	0.00	—	10.00	10.00
2026年3月期	—	—	—	—	—
2026年3月期(予想)	—	0.00	—	10.00	10.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2026年3月期の連結業績予想(2025年4月1日～2026年3月31日)

(%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期(累計)	10,200	△0.8	158	14.1	178	34.7	108	43.3	8.02
通期	20,550	0.1	340	14.5	380	21.3	240	67.0	17.82

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における連結範囲の重要な変更 : 無
新規 —社(社名)— 、除外 —社(社名)—

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有

(注) 詳細は、添付資料「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)」をご覧ください。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

- ① 期末発行済株式数(自己株式を含む)
- ② 期末自己株式数
- ③ 期中平均株式数(四半期累計)

2026年3月期1Q	15,145,175株	2025年3月期	15,145,175株
2026年3月期1Q	1,680,693株	2025年3月期	1,680,693株
2026年3月期1Q	13,464,481株	2025年3月期1Q	13,464,481株

※ 添付される四半期連結財務諸表に対する公認会計士又は : 有(任意)
監査法人によるレビュー

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績予想等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び実績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	4
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
四半期連結損益計算書	7
第1四半期連結累計期間	7
四半期連結包括利益計算書	8
第1四半期連結累計期間	8
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	9
(継続企業の前提に関する注記)	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	9
(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)	9
(セグメント情報等)	10
(収益認識関係)	12
(キャッシュ・フロー計算書に関する注記)	13
独立監査人の四半期連結財務諸表に対する期中レビュー報告書	14

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第1四半期連結累計期間における国内経済の状況は、雇用・所得環境の改善や、各種経済政策の効果、インバウンド需要の増加など、景気は回復が続いている一方、海外における地政学リスクや米国関税政策の影響、為替変動による企業の経済活動や個人消費への影響が懸念されるなど、先行きは依然として不透明な状況が続いています。

当社グループの状況につきましては、アスモフードサービス事業は、新規受託施設先が増加したことにより、売上は好調に推移しましたが、アスモトレーディング事業は、商品の価格高騰により取扱量が減少し販売に苦戦いたしました。アスモ介護サービス事業は、訪問介護事業所先が減少し、厳しい環境となりました。慎重な事業運営が求められています。

以上の結果、当第1四半期連結累計期間の業績は、売上高5,144百万円（前年同期比2.4%減）、営業利益116百万円（前年同四半期比7.2%増）、経常利益110百万円（前年同四半期比10.5%減）、親会社株主に帰属する四半期純利益は、68百万円（前年同四半期比18.1%減）となりました。

今後におきましては、各事業の状況に応じて売上高の拡大や原価コントロールの徹底を推し進めることで、更なる業績向上に向け邁進してまいります。

セグメントごとの状況は次のとおりであります。

セグメント名称 (セグメントに該当する会社)		主要な事業の内容
アスモ事業 (株式会社アスモ)		グループ会社の統制・管理、不動産賃貸
アスモトレーディング事業 (株式会社アスモトレーディング)		食肉の輸入、食肉及び食肉加工品の販売
アスモフードサービス事業 (株式会社アスモフードサービス) (株式会社アスモフードサービス東日本)		高齢者介護施設等における給食の提供
アスモ介護サービス事業 (株式会社アスモ介護サービス) (株式会社アスモライフサービス)		訪問・居宅介護事業所の運営、有料老人ホームの運営
ASMO CATERING (HK) 事業 (ASMO CATERING (HK) CO., LIMITED)		香港における外食店舗の運営、食品加工販売
その他	(ASMO CATERING (TAIWAN) COMPANY LIMITED)	台湾における外食店舗の運営 ※事業を休止中

アスモトレーディング事業

アスモトレーディング事業におきましては、世界的なインフレの継続により、輸入商品の価格が上昇しており、お客様に対しての価格転嫁は難しく当社の販売に影響が続いております。為替に関しては昨年と比較して円高での水準となっておりますが、取引価格自体が高いことで取扱量が減少し、低価格の別商品に需要が移行することで食肉の需要が減少しております。

当社としては、昨年の価格高騰により売上確保が困難であったことを踏まえ、今年は重点顧客を設定し、他社より安く販売することだけでなく、顧客に寄り添いながらより丁寧な説明をあわせて提示することで、お客様に納得いただける取引を目指した結果、売上としては前年比較において下回りましたが、営業利益としては前年実績を上回ることが出来ました。

昨年のインフレはアメリカが中心となっておりましたが、今年は例外の国が無く価格は高騰しており、牛肉に関してはメキシコ産牛肉のニーズが上がってきております。

以上の結果、当第1四半期連結累計期間の売上高は、977百万円（前年同四半期比15.9%減）、セグメント利益（営業利益）は28百万円（前年同四半期比8.2%増）となりました。

今後におきましては、インフレは継続し価格高騰も維持されることが予想されます。展示会を開催し商品展示と試食を実施して、お客様に対してより商品価値を理解していただける行動をしてまいります。加えてWEB販売事業やふるさと納税返礼品への出品などの販売チャネルの増加による販路拡大を目指してまいります。

アスモフードサービス事業

アスモフードサービス事業におきましては、お米をはじめとする原材料価格の上昇に加え、人手不足による人件費関連コストの上昇も継続しており、予断を許さない状況が続いております。

当社は、慢性的な人材不足を解消すべく、施設での運営見直し等による効率を重視した人員配置で、コストの最適化に努め、人材資源の投入による利益の確保に努めてまいりました。

また、顧客満足度の向上に資するため、従業員が最大の能力を発揮できる環境を整備し、従業員の資質向上のための体制を確立してまいります。

営業活動においては新規受託先が4施設増え、売上は順調に推移致しました。今後さらなる新規受託先の増加に向けて各拠点に営業専門職を着任させ、より専門的な営業活動を実行することで、新規施設の受託数増加に取り組んでまいります。

以上の結果、当第1四半期連結累計期間の売上高は、2,229百万円（前年同四半期比9.6%増）、セグメント利益（営業利益）は76百万円（前年同四半期比24.2%増）となりました。

今後におきましても、改めて在庫管理の徹底などを行うことで、利益の確保に取り組んでまいります。

アスモ介護サービス事業

アスモ介護サービス事業におきましては、訪問介護事業所、居宅介護支援事業所及び有料老人ホーム運営事業を営んでおり、厳寒から春の陽気へ移り変わるにあたって、新規入居者様ならびにご利用者の獲得に向け精力的に活動した成果もあり、前年同四半期比において新規入居者数が漸増傾向に推移しております。

費用面では光熱費の上昇、サービス提供における日用品の価格高騰等の影響で、前年と比較して利益が減少しておりますが、「安全」を最優先事項と考え、感染症対策等を取りながら日々の運営に努めてまいりました。

これにより当第1四半期連結会計期間末現在、訪問介護事業所33事業所（前年同期末は34事業所）、居宅介護支援事業所11事業所（前年同期末は12事業所）となり、支援させていただいておりますご利用者様（※）は1,950名（前年同期末は1,991名）となりました。また、有料老人ホーム7施設（前年同四半期末は7施設）のご入居者は399名（前年同四半期末は378名）となりました。（※）介護タクシーでの介護保険利用者を除く

以上の結果、当第1四半期連結累計期間の売上高は、1,310百万円（前年同四半期比5.5%減）、セグメント利益（営業利益）は77百万円（前年同四半期比17.1%減）となりました。

今後におきましては、更なる介護サービス提供力の向上を図るとともに、恒常的な人手不足を解消すべく、多様な人材の雇用も視野に入れながら柔軟かつ積極的な採用活動に尽力してまいります。

ASMO CATERING (HK) 事業

ASMO CATERING (HK) 事業におきましては、外食事業は全12店舗の売上高において、対予算比93.6%、前年度対比で98.8%と引き続き厳しい状況が続いておりますが、6月単月においては前年（同月）対比103.8%であり回復基調となっております。

昨年から続いている、香港人が香港ではなく主に週末や連休において、中国大陸に行って買い物や食事をするという『北上消費』が減少しつつあるのではないかとされており、

また、ここ数年の現象である日本を中心とした香港人の旅行熱においても、『7月5日に日本で大災害が起きる』というデマが香港内で広がり、多くの航空会社が日本便をキャンセルしたことをきっかけとして減少傾向になると予測されております。

但し、以前に比べ週末や連休に売上を大きく伸ばすことは当面の間は難しく、オフィスや学生などの需要が必ずある平日のランチタイムメニューを充実させております。

和風食堂とら蔵につきましては、強化メニューとして単品ですがボリュームのある『牛肉キムチとんかつらーめん』や『牛肉味たまキムチ丼』など夏のフェア商品として販売しており、若年層に好評です。

卸売事業は、四半期における売上は前年度対比108.8%と好調に伸びていますが、対予算比では94.8%と未達です。これは当初予定されていた当社の主要顧客である日系外食チェーン各社の新規出店が下期にずれたことなどが要因ですが、日系外食チェーン以外にも日系スーパーなどから食品加工における依頼などを承っており、今後も売上増が期待されます。

以上の結果、当第1四半期連結累計期間の売上高は、625百万円（前年同四半期比8.7%減）、セグメント損失（営業損失）は0百万円（前年同四半期はセグメント損失16百万円）となりました。

今後につきましては、卸売事業が好調に推移している間に、外食事業を立て直し2つの柱となる事業を継続していけるよう今後とも取り組んでまいります。

その他の事業

その他セグメントに含まれておりますASMO CATERING (TAIWAN) COMPANY LIMITEDは、2019年3月を期末とする連結会計年度以降、事業を休止しております。

以上の結果、当第1四半期連結累計期間のセグメント損失（営業損失）は0百万円（前年同四半期はセグメント損失0百万円）となりました。

（2）財政状態に関する説明

（資産）

当第1四半期連結会計期間末における総資産は9,285百万円となり、前連結会計年度末に比べ39百万円減少いたしました。これは主に受取手形が52百万円、未収法人税等が14百万円、有形固定資産が19百万円減少し、現金および預金が15百万円、差入保証金が27百万円増加したことによるものであります。

（負債）

当第1四半期連結会計期間末における負債合計は2,710百万円となり、前連結会計年度末に比べ25百万円増加いたしました。これは主に短期借入金が13百万円、未払金が106百万円、未払消費税等が34百万円、預り金が76百万円増加し、支払手形及び買掛金が104百万円、賞与引当金が97百万円減少したことによるものであります。

（純資産）

当第1四半期連結会計期間末における純資産合計は6,575百万円となり、前連結会計年度末に比べ65百万円減少いたしました。これは主に利益剰余金が65百万円減少したことによるものであります。

この結果、自己資本比率は70.6%（前連結会計年度末は71.0%）となりました。

続く物価上昇の影響により、前年同四半期に比べて利益が減少しておりますが、当社グループの財政状態に大きな影響を与えるものではございません。また、納税、賞与、配当等の支払いがあった上で現金及び預金が増加しておりますが、順当な増減の範囲内であると認識しております。

資本の財源につきましては、当社グループの運転資金・設備投資について、一部連結子会社で一時的な借入を行うことがあります。基本的には自己資金により充当しております。当第1四半期連結会計期間末の有利子負債残高は、短期借入金35百万円とリース債務29百万円の合計65百万円であり、前連結会計年度末と比較して7百万円増加しております。

現金及び預金の当第1四半期連結会計期間末残高は5,400百万円であり、資金の流動性は十分に確保できており、小規模ベースのM&Aや隣接事業への拡大についても対応できる水準であります。

（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2026年3月期の業績予想につきましては、2025年5月14日の「2025年3月期 決算短信」で公表いたしました第2四半期連結累計期間及び通期の連結業績予想に変更はありません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2025年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2025年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	5,385,649	5,400,958
受取手形及び売掛金	2,115,930	2,063,495
商品	388,287	393,110
貯蔵品	13,209	12,587
その他	258,903	250,587
貸倒引当金	△3,566	△2,877
流動資産合計	8,158,413	8,117,862
固定資産		
有形固定資産		
その他(純額)	137,038	117,964
有形固定資産合計	137,038	117,964
無形固定資産		
その他	13,020	12,309
無形固定資産合計	13,020	12,309
投資その他の資産		
その他	1,596,708	1,614,708
貸倒引当金	△579,209	△576,859
投資その他の資産合計	1,017,499	1,037,849
固定資産合計	1,167,558	1,168,123
資産合計	9,325,971	9,285,985

(単位:千円)

	前連結会計年度 (2025年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2025年6月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	732,100	627,570
短期借入金	22,340	35,890
未払法人税等	26,564	34,028
賞与引当金	202,463	104,545
その他	1,389,074	1,595,592
流動負債合計	2,372,543	2,397,626
固定負債		
退職給付に係る負債	293,781	295,467
その他	18,772	17,330
固定負債合計	312,553	312,797
負債合計	2,685,096	2,710,424
純資産の部		
株主資本		
資本金	2,323,272	2,323,272
利益剰余金	4,494,612	4,428,709
自己株式	△340,899	△340,899
株主資本合計	6,476,985	6,411,082
その他の包括利益累計額		
繰延ヘッジ損益	△233	△41
為替換算調整勘定	156,104	156,227
退職給付に係る調整累計額	△11,507	△8,630
その他の包括利益累計額合計	144,364	147,555
非支配株主持分	19,525	16,924
純資産合計	6,640,874	6,575,561
負債純資産合計	9,325,971	9,285,985

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第1四半期連結累計期間

(単位:千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2025年4月1日 至 2025年6月30日)
売上高	5,269,907	5,144,727
売上原価	4,281,208	4,183,897
売上総利益	988,698	960,830
販売費及び一般管理費	880,086	844,373
営業利益	108,612	116,456
営業外収益		
受取利息	1,731	1,645
為替差益	17,496	—
貸倒引当金戻入額	—	2,349
助成金収入	553	2,510
その他	284	275
営業外収益合計	20,065	6,782
営業外費用		
支払利息	301	235
為替差損	—	12,192
貸倒引当金繰入額	4,597	—
その他	—	23
営業外費用合計	4,899	12,452
経常利益	123,778	110,786
特別利益		
固定資産売却益	1,083	778
特別利益合計	1,083	778
税金等調整前四半期純利益	124,862	111,564
法人税、住民税及び事業税	41,292	45,457
法人税等調整額	219	—
法人税等合計	41,511	45,457
四半期純利益	83,350	66,107
非支配株主に帰属する四半期純損失(△)	△558	△2,634
親会社株主に帰属する四半期純利益	83,909	68,741

四半期連結包括利益計算書

第1四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2025年4月1日 至 2025年6月30日)
四半期純利益	83,350	66,107
その他の包括利益		
繰延ヘッジ損益	689	191
為替換算調整勘定	6,637	156
退職給付に係る調整額	1,443	2,876
その他の包括利益合計	8,770	3,224
四半期包括利益	92,121	69,331
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	91,252	71,932
非支配株主に係る四半期包括利益	868	△2,601

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

(税金費用の計算)

税金費用については、当第1四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

ただし、当該見積実効税率を用いて税金費用を計算すると著しく合理性を欠く結果となる場合には、税引前四半期純利益に一時差異等に該当しない重要な差異を加減した上で、法定実効税率を乗じて計算しております。

なお、法人税等調整額は法人税等を含めて表示しております。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第1四半期連結累計期間(自 2024年4月1日 至 2024年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント					
	アスモ 事業	アスモトレ ーディング 事業	アスモフー ドサービス 事業	アスモ介護 サービス 事業	ASMO CATERING (HK) 事業	計
売上高						
外部顧客への売上高	1,194	1,161,738	2,034,183	1,387,878	684,911	5,269,907
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	10,887	70,164	—	—	81,052
計	1,194	1,172,626	2,104,348	1,387,878	684,911	5,350,959
セグメント利益又は損失(△)	△55,888	26,379	61,562	93,259	△16,390	108,923

(単位:千円)

	その他 (注)	合計	調整額	四半期連結 損益計算書 計上額
売上高				
外部顧客への売上高	—	5,269,907	—	5,269,907
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	81,052	△81,052	—
計	—	5,350,959	△81,052	5,269,907
セグメント利益又は損失(△)	△200	108,722	△110	108,612

(注) 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメント(ASMO CATERING (TAIWAN) 事業)であり、現在当該事業を休止しております。

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容

(差異調整に関する事項)

(単位:千円)

利益	金額
報告セグメント計	108,923
「その他」の区分の損失(△)	△200
セグメント間取引消去	△110
四半期連結損益計算書の営業利益	108,612

Ⅱ 当第1四半期連結累計期間(自 2025年4月1日 至 2025年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント					
	アスモ 事業	アスモトレ ーディング 事業	アスモフー ドサービス 事業	アスモ介護 サービス 事業	ASMO CATERING (HK) 事業	計
売上高						
外部顧客への売上高	1,194	977,265	2,229,743	1,310,992	625,531	5,144,727
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	6,606	74,245	—	—	80,851
計	1,194	983,871	2,303,988	1,310,992	625,531	5,225,578
セグメント利益又は損失(△)	△65,154	28,549	76,471	77,280	△866	116,280

(単位:千円)

	その他 (注)	合計	調整額	四半期連結 損益計算書 計上額
売上高				
外部顧客への売上高	—	5,144,727	—	5,144,727
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	80,851	△80,851	—
計	—	5,225,578	△80,851	5,144,727
セグメント利益又は損失(△)	△259	116,021	435	116,456

(注) 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメント(ASMO CATERING (TAIWAN) 事業)であり、現在当該事業を休止しております。

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位:千円)

利益	金額
報告セグメント計	116,280
「その他」の区分の損失(△)	△259
セグメント間取引消去	435
四半期連結損益計算書の営業利益	116,456

(収益認識関係)

顧客との契約から生じる収益を分解した情報

当社の売上高は、主に顧客との契約から認識された収益であり、当社の報告セグメントを財又はサービスの種類別に分解した場合の内訳は、以下のとおりです。

前第1四半期累計期間（自 2024年4月1日 至 2024年6月30日）

(単位：千円)

	報告セグメント					
	アスモ事業	アスモトレーディング事業	アスモフードサービス事業	アスモ介護サービス事業	ASMO CATERING (HK) 事業	計
食肉販売	—	1,099,214	—	—	—	1,099,214
加工商品の販売	—	62,524	—	—	—	62,524
給食提供サービス	—	—	2,034,183	—	—	2,034,183
介護サービス	—	—	—	1,165,690	—	1,165,690
運営する介護施設でのサービス	—	—	—	108,631	—	108,631
飲食店舗（香港）	—	—	—	—	310,887	310,887
食品加工販売（香港）	—	—	—	—	354,533	354,533
その他	—	—	—	13,191	19,491	32,682
顧客との契約から生じる収益	—	1,161,738	2,034,183	1,287,513	684,911	5,168,347
その他の収益	1,194	—	—	100,364	—	101,559
外部顧客への売上高	1,194	1,161,738	2,034,183	1,387,878	684,911	5,269,907

当第1四半期累計期間（自 2025年4月1日 至 2025年6月30日）

(単位：千円)

	報告セグメント					
	アスモ事業	アスモトレーディング事業	アスモフードサービス事業	アスモ介護サービス事業	ASMO CATERING (HK) 事業	計
食肉販売	—	864,454	—	—	—	864,454
加工商品の販売	—	112,810	—	—	—	112,810
給食提供サービス	—	—	2,229,743	—	—	2,229,743
介護サービス	—	—	—	1,081,296	—	1,081,296
運営する介護施設でのサービス	—	—	—	114,365	—	114,365
飲食店舗（香港）	—	—	—	—	255,744	255,744
食品加工販売（香港）	—	—	—	—	367,580	367,580
その他	—	—	—	9,758	2,206	11,965
顧客との契約から生じる収益	—	977,265	2,229,743	1,205,421	625,531	5,037,961
その他の収益	1,194	—	—	105,570	—	106,765
外部顧客への売上高	1,194	977,265	2,229,743	1,310,992	625,531	5,144,727

(キャッシュ・フロー計算書に関する注記)

当第1四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第1四半期連結累計期間に係る減価償却費（無形固定資産に係る償却費を含む。）は、次のとおりであります。

	前第1四半期連結累計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2025年4月1日 至 2025年6月30日)
減価償却費	18,464千円	17,950千円

独立監査人の四半期連結財務諸表に対する期中レビュー報告書

2025年8月14日

株式会社アスモ
取締役会 御中

新 宿 監 査 法 人

東 京 都 新 宿 区

指 定 社 員
業務執行社員

公認会計士 田 中 信 行

指 定 社 員
業務執行社員

公認会計士 白 方 敬 裕

監査人の結論

当監査法人は、四半期決算短信の「添付資料」に掲げられている株式会社アスモの2025年4月1日から2026年3月31日までの連結会計年度の第1四半期連結会計期間（2025年4月1日から2025年6月30日まで）及び第1四半期連結累計期間（2025年4月1日から2025年6月30日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について期中レビューを行った。

当監査法人が実施した期中レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、株式会社東京証券取引所の四半期財務諸表等の作成基準第4条第1項及び我が国において一般に公正妥当と認められる四半期財務諸表に関する会計基準（ただし、四半期財務諸表等の作成基準第4条第2項に定める記載の省略が適用されている。）に準拠して作成されていないと信じさせる事項が全ての重要な点において認められなかった。

監査人の結論の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる期中レビューの基準に準拠して期中レビューを行った。期中レビューの基準における当監査法人の責任は、「四半期連結財務諸表の期中レビューにおける監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定（社会的影響度の高い事業体の財務諸表監査に適用される規定を含む。）に従って、会社及び連結子会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

四半期連結財務諸表に対する経営者並びに監査役及び監査役会の責任

経営者の責任は、株式会社東京証券取引所の四半期財務諸表等の作成基準第4条第1項及び我が国において一般に公正妥当と認められる四半期財務諸表に関する会計基準（ただし、四半期財務諸表等の作成基準第4条第2項に定める記載の省略が適用されている。）に準拠して四半期連結財務諸表を作成することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

四半期連結財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき四半期連結財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、株式会社東京証券取引所の四半期財務諸表等の作成基準第4条第1項及び我が国において一般に公正妥当と認められる四半期財務諸表に関する会計基準（ただし、四半期財務諸表等の作成基準第4条第2項に定める記載の省略が適用されている。）に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査役及び監査役会の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

四半期連結財務諸表の期中レビューにおける監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した期中レビューに基づいて、期中レビュー報告書において独立の立場から四半期連

結財務諸表に対する結論を表明することにある。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる期中レビューの基準に従って、期中レビューの過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対する質問、分析的手続その他の期中レビュー手続を実施する。期中レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

- ・継続企業の前提に関する事項について、重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められると判断した場合には、入手した証拠に基づき、四半期連結財務諸表において、株式会社東京証券取引所の四半期財務諸表等の作成基準第4条第1項及び我が国において一般に公正妥当と認められる四半期財務諸表に関する会計基準（ただし、四半期財務諸表等の作成基準第4条第2項に定める記載の省略が適用されている。）に準拠して作成されていないと信じさせる事項が認められないかどうか結論付ける。また、継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、期中レビュー報告書において四半期連結財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する四半期連結財務諸表の注記事項が適切でない場合は、四半期連結財務諸表に対して限定付結論又は否定的結論を表明することが求められている。監査人の結論は、期中レビュー報告書日までに入手した証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。

- ・四半期連結財務諸表の表示及び注記事項が、株式会社東京証券取引所の四半期財務諸表等の作成基準第4条第1項及び我が国において一般に公正妥当と認められる四半期財務諸表に関する会計基準（ただし、四半期財務諸表等の作成基準第4条第2項に定める記載の省略が適用されている。）に準拠して作成されていないと信じさせる事項が認められないかどうかを評価する。

- ・四半期連結財務諸表に対する結論表明の基礎となる、会社及び連結子会社の財務情報に関する証拠を入手する。監査人は、四半期連結財務諸表の期中レビューに関する指揮、監督及び査閲に関して責任がある。監査人は、単独で監査人の結論に対して責任を負う。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、計画した期中レビューの範囲とその実施時期、期中レビュー上の重要な発見事項について報告を行う。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去するための対応策を講じている場合又は阻害要因を許容可能な水準にまで軽減するためのセーフガードを適用している場合はその内容について報告を行う。

利害関係

会社及び連結子会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

(注) 1. 上記の期中レビュー報告書の原本は当社（四半期決算短信開示会社）が別途保管しております。

2. XBRLデータ及びHTMLデータは期中レビューの対象には含まれていません。